

「平成30年7月豪雨」の検証について

福山市

降雨状況

ア 雨量 392.5ミリ（72時間）
松永町雨量計 ※観測史上1位

〔参考〕 2016年6月大雨 148.5ミリ（48時間）
7月の平均雨量 176.7ミリ/月

イ 1時間最大雨量 43.0ミリ（6日20時20分～21時20分）
新市町雨量計

〔参考〕 2016年6月大雨 37ミリ
7月の観測史上1位 56.5ミリ/時間

ウ 24時間最大雨量 238.0ミリ（7日8時30分～8日8時30分）
松永町雨量計 ※観測史上1位（従来164ミリ）

〔参考〕 2016年6月大雨 148.5ミリ

主な被災状況

【河川の被害等】

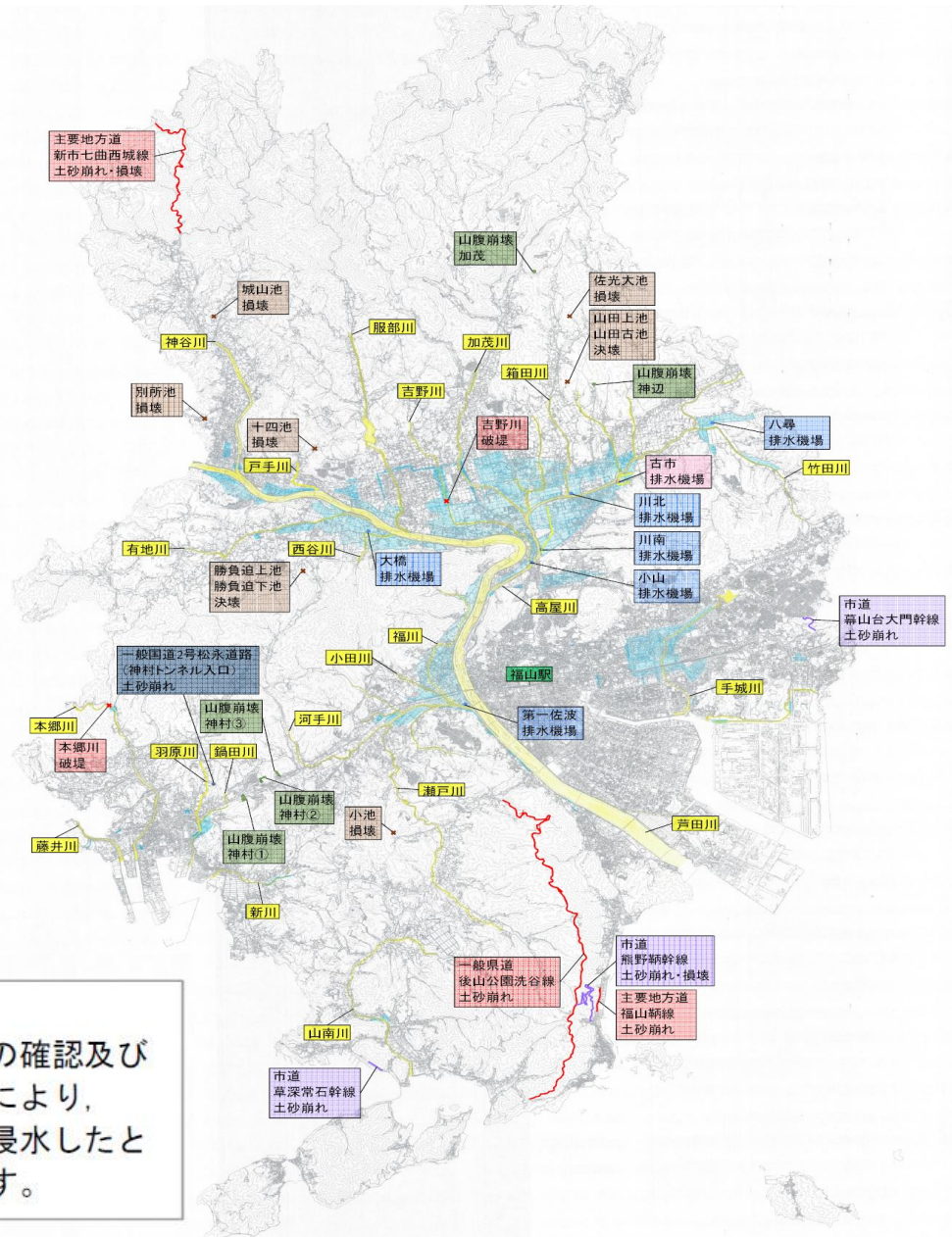
○破堤 2


○越水 28

【ため池の被害】

○決壊 5

○損壊 9



 : 浸水区域
浸水区域は、本市の確認及び市民等からの情報により、ある程度の規模で浸水したと想定される範囲です。

山手町(山手橋付近)



駅家町



神辺町



撮影：平成30年7月7日15時頃

神村町(土砂災害)



駅家町(ため池の決壊)



被害状況（1月31日現在）

ア 人的被害

死亡	3名
	(関連死 1名を含む)
重傷	5名

イ 建物被害

全壊	14件
大規模半壊	2件
半壊	75件
床上浸水（半壊を除く）	1,247件
床下浸水	896件

7月豪雨の検証結果 ～ソフト対策～

1 検証の目的

「平成30年7月豪雨」の課題を検証し、改善を図ることにより、より迅速・的確な対応ができるよう、防災体制の充実強化を図る。

2 検証の体制

「防災対策検討会議」の設置

【構成】福山市自治会連合会，学区自主防災組織（5学区），福山市消防団，福山市社会福祉協議会，福山防災リーダー連絡協議会，広島県警察，福山市，消防局

3 経緯

2018年	8月30日	第1回検討会議
	9月28日	第2回検討会議
	10月26日	全学区の自治会・自主防災組織へ中間報告
	11月25日	総合防災訓練において検証内容の確認
	12月 5日～20日	総合防災訓練に関するアンケート
2019年	1月25日	第3回検討会議（検証結果の取りまとめ）
	3月25日	全学区の自治会・自主防災組織へ最終報告

4 検証結果（今後の対応）

(1) 避難情報の伝達

【課題】

- ・避難情報の意味や発令時の行動が分からない。
- ・避難行動につながるような情報をもらいたい。
- ・携帯電話を持っていない高齢者などへ情報を伝達する方法を考えておく必要がある。

【改善策】

- 市の広報誌などにより、「避難情報の意味」や「発令時の必要な行動」を市民に周知する。
- 避難勧告等を発令する際は、対象範囲を可能な限り最小限に限定し、地域の危険性を伝える。また、「直ちに避難を開始してください」など、必要な行動も分かりやすく伝える。
- 携帯電話を持っていない方への情報伝達手段として、「災害情報電話通報サービス」を導入する。
(登録した固定電話の電話番号に、避難情報等を音声で案内)

(2) 避難場所の開設の考え方

【課題】

どのような場合にどの避難場所を開設するのかなど、開設の考え方を整理しておく必要がある。

- ・ 開設された避難場所が少ない。避難場所が遠い。
- ・ 避難場所へ行ったが開いていなかった。（未開設）
- ・ 避難場所（土砂災害）や避難路，駐車場が浸水した。駐車場が一杯で混雑した。など

【改善策】

- 大雨が予想される場合は、「土砂」，「洪水」のどちらにも対応した避難場所を開設する。
- 緊急時に多くの避難場所を迅速に開設できるよう，市では地域と決めた避難場所を小学校区単位で各1か所を開設，あわせて自主防災組織でも避難場所を自主開設してもらう。
- 「避難勧告」，「避難指示（緊急）」の場合，早めに避難者の受け入れが開始できるよう，公立小中学校については，本部から連絡を受けた自主防災組織の方に開錠してもらう。（職員も後から鍵を持って行く。）

(3) 避難場所での対応

【課題】

- ・避難場所（地域による自主開設を含む）への物資の支援が必要
- ・プライバシー対策が必要
- ・ペットと一緒に避難できる避難場所が必要
- ・電話が通じない地域にある避難場所への情報伝達の対策が必要（熊野町）
- ・夜間でも安全に避難できるように、小中学校グラウンドの照明を活用してほしい。

【改善策】

- **避難場所へも物資など必要なものを可能な範囲で配送する。**
あわせて市の広報誌などにより、**各自必要なものを持参するよう周知する。**
- **ダンボール間仕切りや屋内用テントによりプライベート空間を確保する。**
- **ペットと一緒に避難することができる避難場所を開設する。**
- **駐車スペースの確保や誘導員の配置など、避難者が円滑に避難できるようにする。**
- **電話が通じない地域にある避難場所へ衛星携帯電話を配備する。**
- **避難所等へ応急用の食糧・毛布を配備する。**
- **小中学校グラウンドの照明を活用できるように、鍵ボックスの鍵を梅雨時期までに準備する。**

(4) 自主防災組織等との連携

【課題】

- ・災害時、自主防災組織と市との連携が十分にできていなかった。
- ・地域の浸水状況や排水機場が停止情報などが、自主防災組織に知らされていなかった。
- ・自主防災訓練への支援が必要
- ・避難行動要支援者の支援者が決まってない。

【改善策】

- 自主防災組織との連携を図るため、**ホットラインを構築**する。
(災害対策本部に専用電話回線を設置、自主防災組織の連絡先を確認)
- 自主防災組織への**活動補助制度を新設**する。
- 避難場所（自主開設を含む）へ被害や気象などに関する情報を提供する。
- **地域の浸水状況や市の対応状況などを、自主防災組織へ提供**する。
- 自主防災組織の活動事例集や手引きなど、市のホームページで公開している資料を、研修会などを通じて紹介する。
- 避難行動要支援者への対策については、今年度、市関係部署と防災リーダーが地域に出向いて行う「**防災をテーマにした地域との意見交換会等**」を通じて、**地域課題などを共有しながらともに検討**する。

(5) 周知・啓発等

【課題】

- ・ 緊急速報メールを受信するために必要な携帯電話の設定方法を周知する必要がある。
- ・ 避難する際には避難場所の開設状況を必ず確認するよう周知が必要
- ・ 携帯電話の電源が切れた場合の対応を考えておく必要がある。
- ・ 地域に応じた避難場所の検討や実効性のある避難訓練が必要
- ・ 河川の監視カメラや水位等の情報を、避難を判断する際に活用してもらう取組が必要
- ・ ペットと一緒に避難する際、ケージ・リード・えさを持参するなどのルールを飼い主に徹底する必要がある。

【改善策】

- 市の広報誌などにより、**避難の際の留意事項を市民に周知する。**
(避難の際に避難場所の開設状況を確認することなど)
- 避難の参考にしてもらうよう、インターネットで公開されている**国・県河川の監視カメラ映像や水位情報をホームページなどで周知する。**
- 地区防災計画の作成支援や、家庭での避難方法の検討などに継続的に取り組む。
- 市の広報誌などにより、**ペットと同行避難が可能な避難場所や、ケージの持参などのルールを市民に周知する。**

防災に関する地域説明会について

	【ソフト対策】 「防災をテーマとした 地域との意見交換会等」	【ハード対策】 (浸水対策の説明会)
対象	全市を対象 (市内8ブロックで実施)	浸水被害が発生した地域 (希望学区で実施)
時期	5月まで	5月下旬から
内容	○7月豪雨検証の検証結果 ○新たな取組 ・自主防災組織活動補助金 ・災害情報電話通報サービス ・警戒レベルに応じた避難など ○意見交換 (自主防災活動について)	・浸水対策 「福山市域における浸水対策協議会」で取りまとめた整備の工程表
出席者	・自主防災組織の役員 ・市(防災, 避難行動要支援者, まちづくり等の担当部署) ・消防団・防災リーダー	・市民 ・市(建設局, 上下水道局等) ※広島県